ブラジル連邦共和国上院の招待による同国公式訪問参議院副議長一行報告書

団　　長	参議院副議長	輿石　　東
	参議院議員	吉田　博美
	同	榛葉賀津也
同　　行	議事部長	岡村　隆司
	記録部記録企画課長	小松　康志
	副議長秘書	林　　晋
	参事	森　　秀勲

一、始めに

輿石副議長一行は、平成二十七年十月五日から十二日までの間、レナン・カリェイロス・ブラジル連邦共和国上院議長の招待により、同国を訪問し、議会関係者等との会談、日系人関係者等との懇談等を行った。

二、訪問日程

十月五日（月）　東京発

十月六日（火）　ブラジリア着
ブラジル連邦議会上院副議長との会談
連邦議会視察
上院副議長、上院議員、日系下院議員等との懇談

十月七日（水）　ブラジリア発
リオデジャネイロ着
リオデジャネイロ市内再開発地区（ポルト・マラヴィーリャ）視察
リオデジャネイロ日系人団体代表・在住日本人との懇談

十月八日（木）　リオデジャネイロ日本人学校視察
オリンピック公共機関（ＡＰＯ）会長との会談
オリンピック・パラリンピック開会式・閉会式会場（マラカナン競技場）視察
リオデジャネイロ発
サンパウロ着
サンパウロ日系人団体代表との懇談

十月九日（金）　サンパウロ日本人学校視察
東山農場視察

十月十日（土）　開拓先没者慰霊碑への献花、日本館視察
ブラジル日本県人会代表との懇談

ブラジル日本移民史料館視察
サンパウロ発
十月十二日（月）　東京着

三、日本とブラジルとの関係について

日本とブラジルは一八九五年に日伯修好通商航海条約に調印した。したがって、二〇一五年は日ブラジル外交関係樹立百二十周年という記念すべき節目の年に当たる。

また、日本からブラジルへの最初の移民船「笠戸丸」がサンパウロのサントス港に到着した一九〇八年以来、ブラジルにおける日系人社会の歴史も百年を超えている。世界各国に在住する日系人の総数は、三百二十万人とも言われるが、ブラジルにはその半数強が在住しており、海外における日系人社会として世界最大となっている。逆に日本には約十七万人のブラジル人が在住しており、アメリカ、パラグアイに次ぐ世界第三位の海外ブラジル人社会を形成している。このように両国の人的交流は、太く、広く、それぞれの国の基盤の一部を成すほどに密接なものとなっている。そして、単に人数の多寡の問題だけでなく、前述の訪問日程中に行われた様々なブラジル在住の日本人・日系人の方々との懇談からは、ブラジルにおける日本人・日系人は、その勤勉性や誠実性をもって、ブラジル人からの信頼を得、ブラジル社会に貢献していることが感じ取られた。
さらに、二〇一六年にはリオデジャネイロにおいて、オリンピック・パラリンピックが開催され、同祭典は、その四年後の二〇二〇年には東京に引き継がれて開催されることとなっており、このことも訪問先各所で言及されたところである。

四、会談、視察等について

（一）ブラジル連邦議会上院副議長との会談

一行は、首都ブラジリアにおいてブラジル連邦議会上院を訪問し、ジョルジ・ヴィアナ上院副議長を始めアナ・アメリア上院議員（農業・農業改革委員会委員長）、アロイジオ・ヌネス上院議員（外交国防委員会委員長）、オット・アレンカール上院議員（環境委員会委員長）、エリオ・ジョゼ上院議員と会談を行った。

会談において輿石副議長は、まず、今般の招待に対して感謝の意を表し、日本とブラジルの外交関係樹立百二十周年という節目の年に当地を訪問できたことは大きな喜びである旨を述べた上で、両国は民主主義国家として基本的価値観を共有しており、政治、経済、文化等において友好的な関係を築いているところ、今秋に予定されている秋篠宮同妃両殿下の訪伯により両国の関係は一層深まるものと考える旨、ブラジルにおける約百九十万人の日系人社会、日本における約十七万人のブラジル人コミュニティという人的交流、人と人との結びつきこそが両国関係発展のための重要な財産であり、また、議会人同士の交流は、両国関係の更なる発展のために重要な役割を果たすものと考える旨を述べた。

ヴィアナ副議長は、一行の訪伯に歓迎の意を表した上で、ブラジルにとって日本は兄弟であり、その日本の参議院を重要視している旨、今回の一行の訪伯は、外交関係樹立百二十周年の祝いの一環であり、また、両国議会関係の緊密化という目的に資するものである旨、同席している各上院議員とも更なる両国議会関係発展のための協力をしていきたい旨を述べた。

また、会談途中にレナン・カリェイロス上院議長が、エドゥアルド・ブラガ鉱山・エネルギー大臣とともに一行の下を訪れ、歓迎の意を表した。

その他、連邦議会上院における日伯外交関係樹立百二十周年記念行事、上院の選挙制度、科学技術・エネルギー分野における両国の関係強化、国家基盤の形成における教育の重要性、両国の議会間交流の更なる発展等について意見交換が行われた。

会談終了後、一行は連邦議会内の視察を行い、開会中の上下両院本会議場において、ヴィアナ副議長を始めとする複数の議員による歓迎のスピーチをもって迎えられた。

（二）上院副議長、上下両院議員等との懇談

上院訪問後、一行はヴィアナ副議長、アメリア上院議員、ルイス・ニシモリ下院議員（伯日議員連盟会長）、ケイコ・オオタ下院議員、ケイロス・ムニス下院議員及びワルテル・イイホシ前下院議員らと懇談を行った。なお、ニシモリ議員、オオタ議員、イイホシ前議員は日系の政治家である。懇談においては、両国における日系人・日系社会支援に関する諸課題、議会内の諸課題、通商・貿易政策、環境・エネルギー政策等について広く意見交換を行った他、両国の食文化等について親しく会話が交わされ、親密な両国議会関係の構築に大いに資するものとなった。

（三）リオデジャネイロ市内再開発地区視察

リオデジャネイロは、オリンピック・パラリンピックの開催を二〇一六年に控え、競技施設の建設等が急速に進められている。一方で、市内のインフラは脆弱であり、慢性的な交通渋滞の発生など解決すべき課題も多い。そこで、リオ市民の生活の質の向上と持続可能な地域の社会経済活動の推進を目的として、約五百万平方メートルのセントロ港湾地区の再開発が進められており、通称「ポルト・マラヴィーリャ（美しい港）計画」と呼ばれている。

一行は、同計画についてラウデマール・アギアール・リオデジャネイロ市国際関係部長より説明を聴取した。同計画は、官民のパートナーシップ事業であり、建物容積率の拡張権を民間デベロッパーに販売することで財源を賄っており、公的資金は投入されていないことが特徴とされる。また、同地区に存在する歴史遺産の再評価も併せて行っているとのことであり、アメリカ大陸における奴隷貿易の拠点となったヴォロンゴ港の遺構の視察等も行った。

（四）リオデジャネイロ日系人団体代表・在住日本人との懇談

一行は、リオデジャネイロに在住する鹿田明義リオデジャネイロ州日伯文化体

育連盟理事長、高尾勇日伯文化協会第一副会長、小林直樹リオデジャネイロ日本商工会議所会頭、ケンイチロウ・クリハラ日系協会副会長、河野匡宏リオデジャネイロ日本人学校校長の各氏と懇談し、日系人の国籍及び戸籍に関する諸問題、リオデジャネイロ市内の治安状況、日本人子弟の教育環境等について意見交換を行った。

（五）リオデジャネイロ日本人学校視察

リオデジャネイロ日本人学校は、主に日本よりブラジルに一時的に派遣された日本人の子弟に対し、ブラジルと日本の一般文化の普及の他に、日本の学校教育の基本課程を習得させ、帰国後に日本の学校教育に直ちに適応できるように計画・運営することを目的として一九七一年に設立されたもので、現在の在籍児童・生徒数は十七人である。一行は、河野匡宏校長から説明を聴取するとともに、実際の授業の視察を行った。説明において大きな課題として挙げられたのは治安の問題である。同校は、数年前まで市内サンタテレザ地区にあったが、ファヴェーラと呼ばれるいわゆる貧民街の拡大により同地区の治安環境が悪化し、コルコバードの丘の麓にある現在の校舎に移ったが、現在でも安全対策面での保護者及び学校関係者の精神的負担は大きいとのことであった。

（六）オリンピック公共機関（ＡＰＯ）会長との会談

一行は、マルセロ・ペドローゾ・オリンピック公共機関（ＡＰＯ）会長と会談を行った。まず、ペドローゾ会長より歓迎の言葉が述べられた後、以下の説明があった。

リオデジャネイロ市は、オリンピックの招致に当たり、開催を契機として長年の都市問題を同時に解決することを企図し、アピールした。ＡＰＯは、その実施に向けて、連邦政府、州政府、市政府の三者の連携、連動、統括を図ることを目的とした調整機関である。その具体的な役割は、工事の進捗及びサービスの提供に関する統括的計画の策定と監視、オリンピック・パラリンピックに関わる各機関の連携確保、大会後に残る施設等（レガシー）の利用計画の策定等である。

大会関連予算は、総額で約三百八十七億レアル（約一兆三千億円）であり、三つの区分に分類される。第一の区分は、選手の食費やユニフォーム代等の大会そのものの運営経費であり、スポンサーからの提供資金やグッズの販売収益等による民間資金で賄われる。第二の区分は、競技場、選手村、メディアセンター等の競技関連施設整備費であり、未確定の部分もあるが、約七割が民間資金、約三割が公共資金で賄われる予定である。第三の区分は、インフラ整備に関する費用である。大会終了後もレガシーとしてリオデジャネイロ市に残る施設整備に関わるものであり、将来の公共投資を前倒しし、拡大することとしている。これによりＢＲＴ（バス高速輸送システム）やＶＬＴ（都市鉄道システム）の整備が進められている。

説明の最後に、ペドローゾ会長は、大会の準備及び開催を通じて、国際社会にブラジルのよいイメージ、その知識と能力を示すことができることが最も重要で

ある旨を述べた。

これに対し、輿石副議長は、ブラジルのよいイメージを世界に発信するとの言葉に感銘を受けた旨、来年の大会成功を祈念するとともに、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックにつなげたい旨述べ、ブラジルは今、夢を持ち、たくましく発展していく状況にあると考える旨述べた。

（七）オリンピック・パラリンピック開会式・閉会式会場（マラカナン競技場）視察

マラカナン競技場は、サッカー・ワールドカップの決勝戦が二度にわたって行われるなど、聖地とも呼ばれるサッカー専用競技場であるが、来年のオリンピック・パラリンピックにおいては、開会式及び閉会式の会場となることが決定している。一行は、二〇一四年のワールドカップ開催の際に改修した開会式会場の現状、監視カメラ等のセキュリティ体制等について説明を聴取しつつ、ピッチ内、観客席、選手控室、記者会見室等の視察を行った。

（八）サンパウロ在住日系人団体代表との懇談

一行は、サンパウロに在住する呉屋新城春美ブラジル日本文化福祉協会会長、与儀上原昭雄サンパウロ日伯援護協会第一副会長、本橋幹久ブラジル日本都道府県人会連合会会長、大城幸夫日伯文化連盟（アリアンサ）理事長、近藤剛史ブラジル日本商工会議所副会頭の各氏と懇談し、サンパウロから見た日本の状況認識、ブラジルの景気動向、日本以外の諸国とブラジルとの関係等について意見交換を行った。

（九）サンパウロ日本人学校視察

サンパウロ日本人学校は、ブラジルに滞在する児童・生徒に対し、ブラジルの文化等ブラジル国情について教育を与えるとともに、日本の学校教育制度への編入を希望する児童・生徒のために日本語による基礎教育を実施することを目的として一九六七年に設立されたものである。在籍児童・生徒数は二百五十四人と多数であり、約十二万平方メートルもの広大な敷地の中に多数の校舎・施設が設置されている。

一行は、吉田直人校長から学校の沿革、児童・生徒数の推移、敷地内に存在するコーヒー農園等施設、教職員の構成等について説明を聴取した後、中学生の数学及び小学生の体育の授業を視察した。

（一〇）東山農場視察

東山（とうざん）農場は、サンパウロの北西約百キロに位置するカンピーナス郊外にあり、一九二七年に三菱創業者の岩崎弥太郎氏の長男である久弥氏によって創設されたものである。ちなみに「東山」とは、弥太郎氏の雅号である。一行は、岩崎透東山農場会長から農場の概要について説明を聴取した後、農場内の視察を行った。農場の総面積は約七百二十ヘクタールと広大で、うち三百ヘクタールに約百三十五万本のコーヒー樹が栽培されている様子を一望することができ、また、日本からのブラジル移民を描いたテレビドラマの撮影に使用された施設等

の視察も行った。その後の懇談の中では、岩崎会長よりブラジルの食文化の中に和食の精神を生かすことの意義等について言及がなされた。

（一一）開拓先没者慰霊碑への献花、日本館視察

一行は、本橋幹久ブラジル日本都道府県人会連合会会長の案内を受け、サンパウロ市内イビラプエラ公園内にある開拓先没者慰霊碑に献花を行った。同慰霊碑は、日本からブラジルへの開拓移住者の苦労を偲び、サンパウロ州内に没した開拓移住者の霊を慰めるため、一九七五年に建立されたものである。その後、一行は、公園内にある日本館の視察を行った。同館は、サンパウロ市制四百周年記念事業の一環として、日本人移住者、日本政府等の協力により一九五四年に建設されたもので、資材の全てが日本国内で調達された純和風建築である。

（一二）ブラジル日本県人会代表との懇談

一行は、高野ジョージ・ブラジル山梨県人会会長、高田アルマンド隆男ブラジル長野県人会会長、杉本教雄ブラジル静岡県人会会長と懇談を行い、ブラジルにおける日系人の進学状況、ブラジルと日本の医療制度、オリンピック・パラリンピックの準備状況等について意見交換を行った。

（一三）ブラジル日本移民史料館視察

ブラジル日本移民史料館は、日本からブラジルへの移民七十周年を記念して一九七八年に設立されたもので、ブラジル日本文化福祉協会によって運営されている。一行は、同館の山下リジア玲子運営委員会副委員長の案内により、渡伯時の携行品、農機具、日ポルトガル語辞書、スポーツ用具等についての説明を聴取するなど館内の視察を行った。視察終了後、ニッケイ新聞（ブラジルの日本人・日系人向け日本語新聞）の記者より今回の訪伯による収穫等について取材が行われた。

五、終わりに

一行は、ブラジル連邦共和国上院の誠意ある対応によりヴィアナ副議長との会談を始めとする多くの日程を滞りなく遂行し、ヴィアナ副議長の言葉をお借りすれば、「兄弟」である日伯の議会間交流の実を大いに上げることができた。今回の訪問は、日伯議会間交流の更なる進展及び両国の友好親善に資するものであり、参議院の公式派遣として有益なものであったと考える。

末尾ながら、ブラジル連邦共和国上院事務局を始めとする関係諸機関、関係者各位に改めて深謝するとともに、梅田邦夫駐ブラジル大使、山元毅在リオデジャネイロ総領事、中前隆博在サンパウロ総領事、高橋礼一郎在ニューヨーク総領事、神山武在フランクフルト総領事を始め、在ブラジル大使館及び各総領事館の行き届いた支援についても特記し、厚く御礼申し上げる。